

令和 5 年度 博物館施設 目標設定・評価シート

年度当初目標設定
中間評価（ 月末実績）
年度末確定評価

施設名 さきたま史跡の博物館

I 自己点検・分析

- 1 館の使命・ビジョン
- 2 現状分析と課題の抽出
- 3 チェックリスト(自己点検表)

II 目標設定

- 1 中期重点目標と取組みの設定
- 2 単年度指標による数値目標と達成値
- 3 取組みの概要

III 評価

- 1 自己評価総括
- 2 外部評価委員等によるコメント

I 自己点検・分析

1 館の使命・ビジョン

- 1 埼玉古墳群の調査を進め、史跡整備を継続、推進するとともに、金錯銘鉄剣など貴重な文化財を将来にわたり確実に保存、管理し、その活用を図る。
- 2 古墳公園を安心して利用いただけるよう維持・管理し、快適な史跡空間として提供していく。
- 3 埼玉古墳群をはじめ県内の史跡や遺跡、考古資料の総合的な博物館として、関係資料の収集、保管、調査、研究を進め、関係機関と連携し、その成果を企画展や講演会、出前授業等で活用する。

2 現状分析と課題の抽出

- ・史跡整備は整備基本計画に基づき実施しているが、予算上の制約が大きく遅延は免れない。国宝展示室展示ケースの老朽化により資料の保存に不安がある。収蔵庫がすでに満杯で資料管理も問題あり。収蔵資料のうち、鉄製資料の錆防止対策が未処置のものがある。
- ・予算上の制約のため、適切な草刈り等の園地管理や史跡保全の実施が困難な状況にある。また二子山古墳き損により新たな防犯対策の検討が必要である。
- ・埼玉古墳群については調査・研究が継続されているが、それ以外の史跡、遺跡等に関しては計画的・組織的な調査・研究方針が未策定である。
- ・学校教育において、国宝金錯銘鉄剣は教科書への掲載で認知されているが、博物館や資料をどのように活用したらよいかは知れ渡っていない。

II 目標設定

1 中期重点目標と取組みの設定

【中期重点目標】

(No.) (目標)

- | | |
|---------------------------|---------|
| (1) 古墳公園の適切な管理 | 令和5～7年度 |
| (2) 調査・研究方針の策定 | 令和5～7年度 |
| (3) 博学連携の取組みについての学校向け情報発信 | 令和5～7年度 |

【取組み】

- (1) 史跡保存・防犯対策等の検討・実施
- (2) 古代歴史文化協議会研究テーマ等を視野に入れた調査・研究・成果公開の事業展開
- (3) ネット活用、他機関との連携による学校向け情報発信

施設名 さきたま史跡の博物館

(1)全館共通項目

		達成基準	
		未実施、又は取り組まれていない	1
		実施しているが、取組みが不十分	2
		実施、又は達成している	3
項目	チェック内容	達成度	課題等
資料収集	① 資料の収集方針、収集計画に基づき、資料収集を適切に行っているか	3	
	② 映像資料や情報資料等を収集しているか	2	収集しているが、未整理がある。
資料の保存管理	① 収蔵・展示資料の保存管理に関する要項に基づき、資料の保存管理を適切に実施しているか	3	
	② 資料の所在確認とともに状態の点検を定期的に行うなど、資料を適切に管理しているか	2	文化財収蔵施設に分散収納のため点検等取組み不十分
	③ 資料の修復や保存処理等の措置を計画的あるいは必要に応じて行っているか	2	金属製品の保存処理の取組不十分
	④ 資料のデータベースの情報を適宜更新し、公開しているか。	2	直近の発掘資料が未公開
資料活用	① 収蔵資料の館外貸出及び特別利用に適切に対応しているか。	3	
	② 収蔵資料をホームページやSNS等で紹介・更新しているか	3	
	③ 収蔵資料のデジタル・アーカイブ化(画像を含めた)に取り組んでいるか	3	
常設展示	① 展示設備等を適宜点検しているか	3	
	② 常設展示は定期的に更新しているか。	3	
	③ 展示ガイドあるいは解説リーフレットを作成し、必要に応じて内容を更新しているか	3	
	④ 展示解説等を適宜実施しているか	3	
	⑤ アンケート結果等を活かした展示改善を実施しているか	3	令和5年度より企画展アンケート開始
	⑥ 日本語を母語としない入館者に配慮した案内表示や展示パネル表示、パンフレット等の配布を行っているか	3	
	⑦ 観覧者の満足度は得られているか	3	
学習支援・普及事業	① 誰もが参加しやすい普及事業を実施しているか(参加申込み方法・プログラム内容・サポート体制等)	3	
	② アンケートなど県民の意見をプログラムの開発・改善に取り入れる工夫をしているか	3	
	③ 来館者用の図書・情報コーナーを適切に運営しているか	3	工事休館中に整理
	④ 学芸員実習やインターンシップを積極的に受け入れているか	3	

項目	チェック内容			
情報発信	①	SNS等その他のあらゆる媒体を活用して、誰もが受け取ることができる情報発信に努めているか	3	
	②	資料その他の専門分野に関する調査研究の成果を生かした情報発信に努めているか	3	
	③	定期的に内容を更新し、常に新しい情報発信を行っているか	3	
	④	デジタル技術を活用したコンテンツの制作・公開に取り組んでいるか	3	
県民との協働・地域連	①	ボランティア活動に関する規程に基づいて、適切に運用されているか	3	
	②	ボランティア研修を適切に実施しているか	3	
	③	外部団体が館事業に参加する機会を設けているか	2	
	④	地域で実施されるイベント等に積極的に関わっているか	2	公園利用許可申請以外、関りが少ない。
	⑤	地域の多様な主体との連携に取り組んでいるか	3	
調査研究	①	収蔵資料に関する調査研究に積極的に取り組んでいるか	3	
	②	資料の保存・管理、展示・教育普及、博物館経営等の博物館学分野での調査研究に取り組んでいるか	2	
	③	館の所在する周辺地域や地域資料についての調査研究に取り組んでいるか	2	
	④	学芸員の専門分野についての調査研究に取り組んでいるか	3	
	⑤	調査研究の経過や成果を、さまざまな媒体・方法(著作物、展示、講演、研究発表等)で公開しているか	3	
施設・アメニティー	①	施設の維持・改善についての計画を策定し、定期的に更新しているか	2	定期的更新には至っていない
	②	バリアフリー化など、改善必要箇所の把握のため自己点検を行っているか	3	
	③	一般駐車場と障害者用駐車場を区別しているか	3	
	④	手すり、点字ブロック、音声ガイダンスなどユニバーサルデザイン化への取り組みがなされているか	3	
	⑤	館内サインの英文標記など国際化への対応はとられているか	3	
	⑥	展示室内の安全性の確保(監視員の配置・監視カメラの設置等)に努めているか。	3	
施設の利活用	①	施設利用のための情報を公開しているか	3	
	②	施設を一般及び学校団体等の利用に提供しているか	3	
	③	施設が地域の賑わい創造や活性化に活用されているか	3	
	④	施設利用が、地域や他施設・機関・学校等との連携に役立っているか	3	

施設名 さきたま史跡の博物館

(2)館別独自項目

達成基準	
未実施、又は取り組まれていない	1
実施しているが、取組みが不十分	2
実施、又は達成している	3

項目	チェック内容	達成度	課題等
史跡 施設 整備 と 活用 事業 の 実 施	① 外部からの指導・助言のもと、全体的な整備計画を策定し、かつ状況の変化に応じて適宜見直しを図っているか。	3	
	② 史跡整備関連の研修参加やAR・VR事例の視察を行っているか	2	予算制約あり
	③ 発掘調査成果を現地見学会や講座、SNS等で公開しているか	3	
	④ 史跡や整備に関する講座・講演会を行っているか	3	
公園 整備 と 活用	① 全体的な整備計画の策定に関与しているか	3	今後の公園拡張計画が不透明
	② 外部に公園の利・活用を呼び掛けているか	2	使用料発生のため、積極的な呼びかけできず
	③ 公園利用についての諸規定があるか	3	
考古 学 実 験 事 業 の 実 施	① 各年代向けのバラエティに富んだ体験事業を行っているか	3	
	② 外部からの出張事業の要請に応えているか	3	
	③ 他館の事例収集やアンケート結果分析を通して、適宜事業の企画・検証・改善を図っているか	2	他館の事例収集がやや不足
企画 展 示 事 業 の 実 施	① 考古の専門館としての企画展を計画・実施しているか。	3	
	② 展示関連の講座・講演会を開催しているか。	3	
	③ アンケートを実施して、参加者の意向を把握しているか。	3	企画展専用のアンケートを実施
関係 機 関 と の 連 携	① 行田市ほか地域団体との連絡調整・連携事業を実施しているか	3	
	② 考古学関係団体や他機関との共催事業を実施しているか	3	
	③ 埼博連等、博物館団体との連絡調整・連携事業を実施しているか	3	

施設名 さきたま史跡の博物館(R5 年度末実績)

Ⅱ-2 単年度指標による目標値と達成値

(1) 全館共通項目

	視点	項目	指標	目標値		達成率	目標値の設定根拠	
				目標値	達成値		特記事項	
1	使命1-3 全般的活用	利用者数	年間入館者とアウトリーチ参加者数	62,868	人	101.0%	第3期教育振興基本計画目標値120,900人×52%(過去の4~8月利用者割合) 4~8月末47,231人 9~3月末16,258人	
				63,489	人			
2	使命1-3 展示公開	常設展観覧者	年間常設展観覧者数	52,200	人	112.3%	基準値100,385人 目標参考値100,385人(前年97,260人)×52% 4~8月末45,616人 9~3月末12,999人	
				58,615	人			
3	使命1-3 全般的活用	利用者数	1日当たりの利用者数	320	人	62.8%	目標参考値(令和4年度値)(年間入館者+アウトリーチ) (4~8月末は47,231人/132日=358人で前年度比112%達成)	
				201	人			
4	使命1-3 情報発信・活用	デジタル情報の利用状況	HPアクセス数	415,160	件	277.5%	基準値415,157件 目標参考値609,532件(前年609,532件) 前年実績値が極端に高く、かつ工事休館のため基準値を目標値とする	
				1,152,006	件			
5	使命1-3 情報発信	広報活動	メディア掲載件数	40	件	50.0%	基準値36件 目標参考値40件 (テレビ7、新聞6、広報誌6、Web記事2、その他4)	
				25	件			
6	使命1-3 活用・利用提供	経営努力	観覧料および事業等収入額	4,480,000	円	182.2%	8,617,000円×52%(予算計上 特別利用626,000円観覧料6,690,000円物販1 特別利用804,410円観覧料4,684,700円物販2,674,950円)	
				8,164,060	円			

(2) 館別独自項目

	視点	項目	指標	目標値		達成率	目標値の設定根拠	
				目標値	達成値		特記事項	
1	使命1 史跡活用	史跡整備成果公開	シンポジウム等参加者	396		267.7%	基準値:396人 目標参考値:396人(R4度シンポ254人・ツアー142人) (シンポジウム314人、古墳群ガイドツアー301人+発掘説明会401人+二子山特別講演会44人)	
				1,060				
2	使命3 展示	観覧者	企画展・テーマ展の観覧者数	22,840	人	85.4%	基準値:43,910人 目標参考値:43,910人×52%=22,833人	
				19,515				
3	使命3 学校連携	出前授業	出前授業の実施校数	40	校	135.0%	基準値:28校 目標参考値40校(出前体験学習含む) 中期重点③ 授業30校、まが玉づくり16校、はにわづくり8校	
				54				
4	使命1~3 学校連携	団体利用	学校団体の利用校数	99	校	113.1%	基準値:181校 目標参考値192校×52%=99校 中期重点③	
				112				
5	使命1 資料保存	IPM	年間のIPM回数	7	回	114.0%	工事休館に伴う資料搬出入時のIPM除く	
				8				
6	使命1-3 展示	アンケート	アンケートでの展示満足度	80	%	123.3%	80%の定性値 二子山展の「楽しめた」「概ね楽しめた」の比率	
				98.6				
7	使命1-3 講座	アンケート	アンケートでの講座等受講者満足度	80	%	122.50%	80%の定性値 さきたま講座2回(大変良かった・よかった74人/回答79人)	
				98				
8	使命1~3)	情報発信	X(旧ツイッター)によるイベント告知等	391	回	132.50%	基準値305件 目標参考値391回 X270回 ホームページ更新238回、LINE10回	
				518	回			

※ 利用者数=常設展観覧者数+無料入館者数+アウトリーチ参加者数 常設展観覧者数=特別展・企画展観覧者数+常設展のみの観覧者数
 ※ 基準値:過去5年間の最小値及び最大値を除いた分の平均値 目標参考値:基準値と昨年度値を比較して大きい方の数値 目標値:目標参考値の1の位を繰り上げた数値 ※ 目標値の設定については、経年の実績を同じ指標で比較することで、それぞれの年度の特徴づけをするために、新型コロナウイルス感染症による利用者への影響等を考慮しないで、例年通りの方法を採用した。

3 取組の概要

さきたま史跡の博物館

○全般的取組

例年と異なり令和5年度は9月～3月末までの本館工事休館等に伴い、下記のような様々な取組を行った。

- ① 国宝を含む展示室・収蔵庫の資料の搬出入
- ② 国宝展示ケース更新に向けた各種調整
- ③ 本館工事中の「さきたまミニ秋祭り」、「青空まが玉づくり」、他施設使用の「シンポジウム」等、事業の展開、体験工房のリニューアル。

○新たな取組

- ① 「中高生のための博物館仕事体験」の実施（郷土・歴史クラブ等をターゲットに広報→満員御礼）
- ② 二子山古墳特別講演会の実施（報告書刊行・発掘調査成果の公表→満員御礼）
- ③ LINEによるプッシュ型広報の開始（古墳群ガイドツアー参加者約20名→110名）

○中期重点目標に係る取組

- ① 史跡保存・防犯対策等
古墳群の定期的巡回、各種サイン設置、柵補強実施、防犯カメラの検討
- ② 調査・研究成果公開
企画展、特別講演会、シンポジウム、紀要刊行等
- ③ 博学連携の取組についての学校向け情報発信
学校向け利用の手引き、ワークシート等（ダウンロード用）の更新、総合教育センターとの連携

Ⅲ 評価

1 自己評価総括

(1) 評価

今年度は9月～3月は本館が工事休館であったため、業務内容も例年と大きく異なる部分も多かった。
○各種指標による達成値について
【全館共通項目】利用者数等については、将軍山古墳展示館のみ開館による効果(9～3月入館者12,999人)が想定以上であった。・HPアクセス数は昨年度の約2倍となった。工事休館の確認等も含まれると思われるが、近年急増していることから改めて閲覧数が多いことが判明した。【館別独自項目】・企画展の観覧者数以外は目標値を上回った。
○チェックリストについて
改善点として、新たに企画展独自のアンケートを開始した。また、図書・情報コーナーを大幅に見直した。
○評価まとめ
工事休館に伴うすべての国宝を含む資料の大移動や執務室の移動、鉄剣展示ケースの予算確保の調整等、例年になく業務が多かったが、その期間でも屋外や他施設等で埼玉古墳群の魅力を発信する事業を行うことができた。また、出前授業や発掘調査等の基幹業務についても例年同様、滞りなく実施することができた。

(2) 課題と対応の方向

○史跡整備の計画的な進捗
文化庁、文化財・博物館課等との連絡を密にし、予算規模に応じ年次計画を柔軟に変更し対応。
○展示ケースの老朽化
国宝展示ケース更新は令和6年度に実施が決定。それ以外の展示ケースは、照明LED化の検討開始。
○金属製品の保存措置
未措置の資料について、脱酸素剤封入の検討・実施。
○防犯対策
防犯カメラ設置の予算要望
○研究方針
古代歴史文化協議会の研究テーマ等に合わせた方針策定。
○学校向け博物館資料の活用
出前授業での活用や中・高生向け事業での活用促進

2 外部評価委員等によるコメント

・知り合いの中でも工事休館でがっかりしていた方がいた。
・体験工房のリニューアルが素晴らしい。積極的に広報し、入館を誘うように工房を「見える化」すればお子さんが興味をもつのではないかと。
・行田市とさまざまな事業をタイアップする必要がある。
・中高生向け講座は、是非発展して行ってほしい。
・アンケートは集計しておしまいではなく、結果の分析が必要である。アンケートの設問も目的を明確にし、精査したほうがよい。
・工事休館があったので、各種数値目標や達成値については、あまり神経質になる必要はない。
・本館改修工事も完了したので、リニューアルした館のPRを積極的に行っていただきたい。
・本館休館時においても、滞りなく事業を進めていたと思う。